

留学先国名 : アメリカ

留学先学校名 : カリフォルニア州立大学フレズノ校

留学期間 : 平成 25 年 8 月 22 日～29 年 5 月 17 日

去年の夏休みの失敗から学び、今年の夏休みはたくさん予定を入れたためとても充実した 3 か月間を送ることが出来ました。その中でも特に思い出に残ったのがタイでの若者会議への参加と Tomodachi ソフトバンクリーダーシッププログラムです。この 2 つのプログラムで学んだことに共通しているのは自分のアイデンティティをしっかり持ち日本から来たというバックグラウンドをアメリカでいかすということです。

まずはタイでのプログラムのほうなのですが、夏休みが始まろうとしているときに、いつもお世話になっている教授からタイで「法の支配」をテーマにした若者会議があるので応募してみないかというお話を頂きました。そのプログラムではアジアの開発と法律に焦点を置いていたので参加者 60 人がタイ、インドネシア、インド、ミャンマー、シンガポール、香港などアジア各国からの参加でした。その中で日本人は私 1 人だけだったので意見交換する時は日本代表としてプレッシャーも感じました。しかしそれ以上にアジアと言っても広く、文化や経済、政治の状況が異なるため各国の例を出し合うことで色々な課題を違った角度から見ながらも、「アジア」という大きなくりで考えるという今までに経験したことのないディスカッション形式を純粋に楽しむことが出来ました。アメリカに留学したおかげで自分の世界は広がったように感じていたけれどやはりまだまだで、もっと世界を見ていかないとだめだなと改めて感じることも出来ました。私はアメリカで犯罪学を勉強しているのでやはりデータや法律などはアメリカやカリフォルニアのものを使っています。なので、他の参加者に日本についての法を聞かれたときに日本が他国からどのように見られているか、日本のシステムの利点や改善点について考えることが出来ました。このプログラムへの参加のおかげで自分の勉強不足を痛感したのですが他の国で同じような目標を掲げ勉強している友達がたくさん出来たので彼らのおかげでモチベーションを保つことも出来ますし、SNS などでもこれからも繋がりがつづけ将来はもしきっかけがあれば一緒に研究やお仕事を出来たらなと思っています。

渡米して 2 年が経ち普段は学校の課題や課外活動に追われているため、だんだんと日本とのコネクションが失われているように感じていました。これはタイに行く前から感じていたことなのですが、タイでのプログラムをきっかけにその気持ちが強くなり、さらに今年の夏に続き参加した Tomodachi ソフトバンクリーダーシッププログラムの参加者である高校生から東北の現状や彼らが行っている、もしくは実行予定の地域復興プランの話を知っているうちに「日本にもっと貢献したい。」という気持ちを行動に移さなくてはと思い私も自分のアクションプランを作りました。

その一つは私の専攻である犯罪学のエリアでの研究することです。アメリカの大学院に行くためにはリサーチの経験を積んでいることがかなり重要で先学期からリサーチのトピックを探していました。そして夏休みの間に、ある教授との出会いのおかげでその日本の社会に役立つことをしたいという気持ちと自分の興味が上手く繋がって犯罪学の中でも具体的に研究したい分野を見つけることが出来ました。そのテーマとは「日本

社会での性的倒錯の起源・発展」です。性的倒錯とは性的対象が近親や小児であったり、性的目標が社会的基準からかけ離れていたりという状態のことをいいます。日本ではアニメ関連のサブカルチャーの発展が原因となり、アニメのキャラクターに性的興奮を覚える男性が多いということで世界でも犯罪学界のなかで注目されています。犯罪学自体が確立していない日本で、しかも性にまつわることなのでデータを集めることが非常に難しく現在までにこのトピックの研究はなかなかされていません。そのアドバイスを願った教授は性的倒錯と連続殺人を専門に研究していらっやっ、日本の警察庁にもゲスト講師として招かれたことがある方です。今学期にちょうど社会科学部の研究者を育てることを目的としたオーナーズプログラムに入ることが出来たため、その教授に私のメンターになって頂き、今学期は私のしたい研究の提案とプランを立て来学期は実際にリサーチペーパーを書き学会で発表する予定です。こちらの大学では私は本当に教授に恵まれていると思います。まずは、先学期からある教授のアシスタントとしてお給料をもらいながらリサーチのデータの整理の仕方などを学ぶことが出来ています。さらに犯罪学部の数人の教授は私の将来のキャリアプランについての的確なアドバイスを下さり、お昼ごはんを一緒に食べて頂き授業では聞けないようなお話を頂くなど日本の大学ではなかなか出来ないと経験しています。なので、これから留学する方には教授に積極的に質問しに行くことをお勧めします（もちろん生徒と先生の間をリスペクトした上でですが）。私がコミュニティーカレッジではなく直接、州立大学に進学した理由の一つは3回生になる前に自分の専攻の教授と親密な関係を築きたかったからです。2回生の終わりごろからインターンシップや大学院への進学、就職などを本格的にプランニングしていかなければならないので教授とのコネクションはあるにこしたことはないです。

もう一つ私がしようと思っていることはJSA(Japanese Student Association)という学生クラブのプレジデントとして大学内、地域で日本文化を広めることです。以前からこのクラブは活動していたのですが、私の大学の日本人の数が少なくなったことによって日本の伝統的な文化よりもアニメなどのサブカルチャーに焦点を置いたクラブになってしまっていて日本人のメンバーもほぼゼロに近い状態でした。なので、今学期はクラブのシステムを大幅に変更し、日本人を積極的にリクルートしていきたいと思います。そして日本の文化を発信していく際にもまずは日本人メンバーがきちんと理解したうえで出来るようにみんなで勉強会を開き知っていきそうで知らない日本を再発見していきます。現在は幹部メンバーとどのようなイベントを行えば日本人も日本人じゃない方も参加してくれるかということを考えています。ゆくゆくは日米、日中、日韓の理解と絆を深めるプログラムも行っていきたいと思います。

今学期は取っているクラスが全て専攻のクラスですし、課外活動も今まで以上に責任のあるポジションに付いているので難しいセメスターになりそうですが、新しく手にしたメンタリティーを武器に頑張っていきたいと思っています。